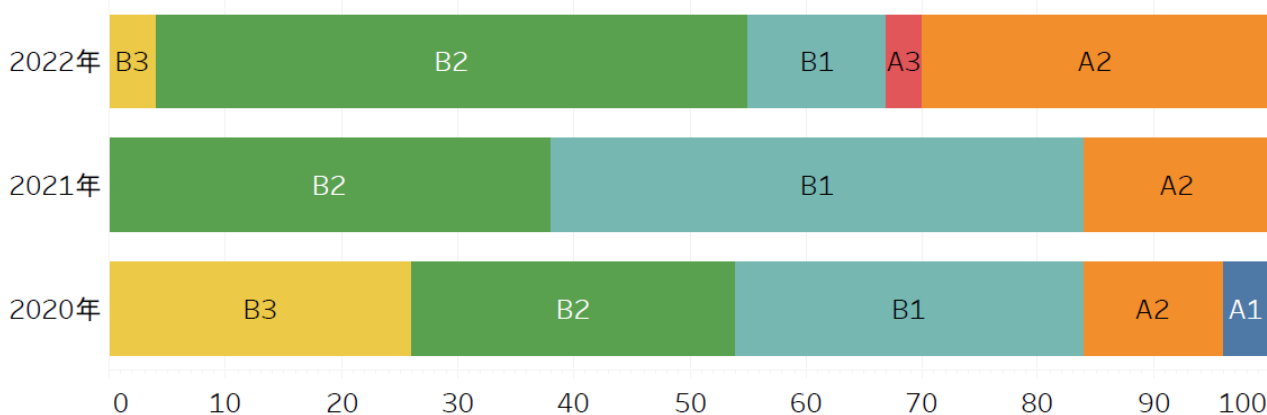


## 2022年 女子学院 算数

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。論理的思考力・応用力が求められる思考コード B の問題を中心として、知識・技術の再現力が求められる思考コード A の問題が出題されます。2021年と比べると B2、B1 の出題が大きく増えています。例年通り時間に追われる展開となったため、問題の取舍選択がカギでした。



大問 1 は、例年通り計算、一行題です。(3)ウ、エは図中の線が多くて取り組みづらかったかもしれません。二等辺三角形に注目することがポイントです。(4)、(5)は確実に得点したい問題です。次の(6)で手が止まった受験生が多かったかもしれません。先に「父の速さ」に注目することで、速さのつるかめ算を利用することができます。大問 2(1)は確実に得点しておきたい問題です。(2)は、40 分の時間内で完答するのは難しいと思います。後回しにするとよいでしょう。(2)は、「9」に注目すると、9 となる式は「 $1 \times 1 \times 9$ 」か「 $1 \times 3 \times 3$ 」のどちらかとわかります。(1)で求めた答えに着目すると、「20 以上 50 未満の素数は 7 個」とわかるため、 $1 + 3 + 3 = 7$  より、「 $1 \times 3 \times 3$ 」と決まります。

大問 3 は、例年 JG でよく見る論理・推理の問題です。落ち着いて取り組みれば、答えにたどり着ける問題ですが、焦って解答できなかった受験生が多かったかもしれません。差がついたと考えられます。大問 4 は、知識の有無でかなり差がついたと言えます。「長方形 A をつける辺」は、全て答えるため、「け」や「さ」を書き落としてしまった受験生が多かったかもしれません。「辺を切る数」は、オイラーの多面体定理を利用した「頂点の数 - 1」の知識があった受験生にとっては瞬時に得点できる問題でした。大問 5 は、JG でよく見る立体と水位の問題です。水位変化をていねいに追っていくことで解答にたどり着ける問題でした。(1)、(2)A、B は取っておきたい問題です。大問 6 の仕事算も、JG を志望する受験生であれば得点できる問題でした。ただ、最後の問題とあって、残り時間も少なく、かなり厳しかったと思います。問題文の「それぞれ同じ量の作業をした」点に注目することで、B と A、A と C、B と C の時間の差を求めることができます。

あくまでも予想ですが、大問 2(2)、大問 3 の後半 2 つ目、大問 5(2)C、D、大問 6 が取れなかったとしても、およそ 6 割 5 分程度に達することができると考えられます。